

だ み よ く り に

No.752 令和6年8月1日発行



「はじめはしっかり」

「梅雨明け後は猛暑に要注意」と聞きますが、言葉通りでしたね。皆さん、体調はいかがですか。子育て、家事、仕事、介護、勉強、それに加えて暑さからの熱中症予防……大変です。本当にお疲れ様です。水分補給をこまめに行い、体調に十分気をつけてお過ごしください。「わたしは大丈夫」と我慢するのではなく、「自分を大切に」でいきましょう。

7月、園内に虫博士が登場しました。小さな虫博士が何人も。1匹のだんご虫を5、6人が頭を寄せあって見るくらいですので、子どもたちの虫好きは肌で感じていました。ところが、それだけではおさまらず、クラス内もしくはクラスを超えて連鎖し、園内虫ブームの到来。登園時、大事にそっと握りしめたり、虫かごに入れて、「これみて」と見せてくれる子。「ぼくね、〇〇してるよ」と虫のことを教えてくれる子。エサをあげたいと自宅のパセリを持ってきてくれる子。様々なタイプの虫博士たち。登園時、受け入れる保育者はどんなに小さな虫でも容器を用意します。それは、子どもの気持ちと子どもの世界を大切にするためです。虫をかごに入れる、というよりも子どもの気持ちを入れる、という感覚です。一緒にいる大人が子どもの世界を大事にすることで、子どもの世界がさらに芽吹くのです。

そんな大人を子どもたちはよく見ています。日本の幼児教育の父と呼ばれる倉橋惣三さんは、大人の「まむき」「よこ顔」「うしろ姿」から子どもはどう感じているのか、また、その大切さを伝えています。子どもと一緒に遊ぶ「まむき」、子どもと並んで同じものを見る

「よこ顔」、家事や仕事を頑張る「うしろ姿」を見て、自分への愛情、幸せを感じているといいます。この暑い8月、ご家族で過ごす時間に、向き合う時間の長さだけでなく質を大事にしてみるのはいかがでしょうか。

「すきなあそびをいっしょにしてくれた」

「ゆびさしたものをちゃんとみてくれた」

「ぎゅってしてくれた」……

大人が思う以上に日常生活の大人の「まむき」「よこ顔」「うしろ姿」に、子どもの喜ぶポイントがあふれています。子どもにやらせたほうが早く身につくだろう、とはじめから手を離してしまいましたが、いえいえ、はじめにしっかりと一緒に手をかけてあげることで、子どもはたくさんのごちそうを得ます。家で過ごす時間に子どもにとっての「まむき」「よこ顔」「うしろ姿」ということを思い出していただければ幸いです。

そして、先日、虫好きの子どもたちの様子を見た保護者の方のご厚意で、年中・年長の子どもたちに珍しいカブトムシとクワガタムシを見せるイベントをご提案いただき、講師の先生が遠方から来てくださりました。子どもたちの虫ブームにより、人との繋がりが生まれました。子どもたちにとって貴重な経験となったことと思います。この場を借りて深く御礼申し上げます。

皆さまの温かいご理解ご協力のおかげさまで、1学期も滞りなく保育・教育にあたることができました。わたしたち保育者も子どもにとっての自分の「まむき・よこ顔・うしろ姿」を大切に過ごしてまいります。

今月も皆さんが健康に過ごされますように。